

# 米国農務省穀物等需給報告(2020年1月10日発表のポイント)

令和2年1月14日  
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、1月10日(現地時間)、2019/20年度の9回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2019/20年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

## 1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 26億6,286万トン(対前年度比 1.4%増)
- ② 消費量: 26億6,981万トン(対前年度比 1.0%増)
- ③ 期末在庫量: 7億9,283万トン(対前年度比 0.9%減)  
期末在庫率: 29.7%(対前年度差 0.6ポイント減)

### 【主な品目別の動向】

**小麦** : 世界の生産量は、干ばつの影響の継続により、豪州では5ヶ月連続で下方修正され、2007/08年度以来の低水準となり、ロシア等でも下方修正されたものの、前年度を上回る見通し。一方、世界の消費量は増加する見通し。世界の生産量が消費量を上回り、期末在庫量は前年度より増加し、史上最高となる見通し。

- ① 生産量: 7億6,439万トン(対前年度比 4.5%増)・・・EU、ウクライナ、インド、中国等で増加、カザフスタンで減少
- ② 消費量: 7億5,437万トン(対前年度比 2.4%増)・・・EU、中国、インド等で増加
- ③ 期末在庫量: 2億8,808万トン(対前年度比 3.6%増)・・・中国、インド等で増加、米国で減少  
期末在庫率: 38.2%(対前年度差 0.4ポイント増)

**とうもろこし** : 世界の生産量は、米国で単収の引き上げにより生産量がわずかに上方修正されたものの、前年度を下回る見通し。世界の消費量は、米国で飼料向け需要が上方修正されたものの前年度より減少する見通し。世界の生産量が消費量を下回り、期末在庫量は前年度より減少する見通し。

- ① 生産量: 11億1,084万トン(対前年度比 1.0%減)・・・中国、ロシア、南ア等で増加、米国、メキシコ等で減少
- ② 消費量: 11億3,341万トン(対前年度比 0.9%減)・・・中国等で増加、EU等で減少  
(前月に比べ米国で上方修正)
- ③ 期末在庫量: 2億9,781万トン(対前年度比 7.0%減)・・・中国、米国、メキシコ等で減少  
(前月に比べ中国で下方修正)  
期末在庫率: 26.3%(対前年度差 1.7ポイント減)

**米(精米)** : 世界の生産量は、タイで乾季米の減産見通しにより下方修正され、前年度を下回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度より増加する見通し。

- ① 生産量: 4億9,667万トン(対前年度比 0.5%減)  
(前月に比べタイで下方修正)
- ② 消費量: 4億9,400万トン(対前年度比 1.4%増)・・・インド等で増加
- ③ 期末在庫量: 1億7,705万トン(対前年度比 1.5%増)・・・中国等で増加  
期末在庫率: 35.8%(対前年度差 0.1ポイント増)

## 2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、米国で単収の引き上げにより生産量がわずかに上方修正されたものの、前年度より減少する見通し。世界の生産量が消費量を下回るため、期末在庫量は前年度より減少する見通し。

- ① 生産量: 3億3,770万トン(対前年度比 5.7%減)・・・ブラジル、中国等で増加、米国、アルゼンチン等で減少
- ② 消費量: 3億5,011万トン(対前年度比 1.9%増)・・・アルゼンチン等で増加
- ③ 期末在庫量: 9,667万トン(対前年度比 12.3%減)・・・米国、アルゼンチン等で減少  
期末在庫率: 27.6%(対前年度差 4.5ポイント減)

## 世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2020年1月10日発表)

### 【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		2,619.04	2,625.96	2,662.86	1.4%	▲ 2.6	2,295.6
消費量		2,600.70	2,642.79	2,669.81	1.0%	5.6	2,284.6
期末在庫量		816.61	799.79	792.83	▲ 0.9%	▲ 5.9	478.2
期末在庫率		31.4%	30.3%	29.7%	▲ 0.6	▲ 0.3	20.9%
<b>小麦</b>							
生産量		762.88	731.45	764.39	4.5%	▲ 1.0	660.4
消費量		742.52	736.45	754.37	2.4%	0.6	680.3
期末在庫量		283.06	278.06	288.08	3.6%	▲ 1.4	179.5
期末在庫率		38.1%	37.8%	38.2%	0.4	▲ 0.2	26.4%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		1,361.36	1,395.36	1,401.80	0.5%	0.1	1,159.3
消費量		1,376.07	1,418.93	1,421.44	0.2%	4.9	1,139.6
期末在庫量		370.92	347.34	327.70	▲ 5.7%	▲ 3.8	175.7
期末在庫率		27.0%	24.5%	23.1%	▲ 1.4	▲ 0.3	15.4%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		1,079.91	1,122.46	1,110.84	▲ 1.0%	2.2	898.9
消費量		1,090.40	1,143.37	1,133.41	▲ 0.9%	6.2	877.4
期末在庫量		341.29	320.39	297.81	▲ 7.0%	▲ 2.8	144.8
期末在庫率		31.3%	28.0%	26.3%	▲ 1.7	▲ 0.4	16.5%
<b>米(精米)</b>							
生産量		494.80	499.16	496.67	▲ 0.5%	▲ 1.7	475.9
消費量		482.11	487.41	494.00	1.4%	0.2	464.8
期末在庫量		162.64	174.39	177.05	1.5%	▲ 0.8	123.0
期末在庫率		33.7%	35.8%	35.8%	0.1	▲ 0.2	26.5%

### 【大豆】

項目	年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比	前月差	
生産量		341.99	358.28	337.70	▲ 5.7%	0.2	269.0
消費量		338.33	343.62	350.11	1.9%	0.4	265.1
期末在庫量		98.89	110.28	96.67	▲ 12.3%	0.3	58.1
期末在庫率		29.2%	32.1%	27.6%	▲ 4.5	0.0	21.9%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(January 10, 2020)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、米(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

## 米国の穀物・大豆の需給動向 (米国農務省2020年1月10日発表)

### 【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			(参 考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		437.43	436.32	419.31	▲ 3.9%	0.3	353.0
消費量		357.95	357.64	361.03	0.9%	5.7	317.1
輸出量		94.57	83.39	77.90	▲ 6.6%	▲ 1.6	51.6
期末在庫量		88.76	91.28	78.86	▲ 13.6%	▲ 1.1	44.2
期末在庫率		19.6%	20.7%	18.0%	▲ 2.7	▲ 0.4	12.0%
<b>小麦</b>							
生産量		47.38	51.31	52.26	1.9%	0.0	61.3
消費量		29.25	30.02	31.71	5.6%	0.3	37.8
輸出量		24.66	25.48	26.54	4.2%	0.0	27.5
期末在庫量		29.91	29.39	26.26	▲ 10.6%	▲ 0.3	19.5
期末在庫率		55.5%	53.0%	45.1%	▲ 7.9	▲ 0.6	29.9%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		384.39	377.91	361.19	▲ 4.4%	0.4	285.3
消費量		324.41	323.05	325.10	0.6%	5.4	275.5
輸出量		67.16	54.94	48.26	▲ 12.2%	▲ 1.7	20.7
期末在庫量		57.92	60.47	51.69	▲ 14.5%	▲ 0.7	23.5
期末在庫率		14.8%	16.0%	13.8%	▲ 2.2	▲ 0.3	7.9%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		371.10	364.26	347.78	▲ 4.5%	0.8	273.2
消費量		313.98	310.47	312.31	0.6%	5.8	263.0
輸出量		61.92	52.46	45.09	▲ 14.0%	▲ 1.9	18.5
期末在庫量		54.37	56.41	48.07	▲ 14.8%	▲ 0.5	20.9
期末在庫率		14.5%	15.5%	13.4%	▲ 2.1	▲ 0.3	7.4%
<b>米(精米)</b>							
生産量		5.66	7.11	5.86	▲ 17.6%	▲ 0.1	6.3
消費量		4.30	4.57	4.22	▲ 7.7%	0.1	3.8
輸出量		2.76	2.97	3.11	4.7%	0.0	3.4
期末在庫量		0.93	1.42	0.91	▲ 35.9%	▲ 0.2	1.2
期末在庫率		13.2%	18.8%	12.4%	▲ 6.4	▲ 2.5	16.1%

### 【大豆】

項目	年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			(参 考) 2012/13
				(予想)	前年度比	前月差	
生産量		120.07	120.52	96.84	▲ 19.6%	0.2	82.8
消費量		58.87	60.52	60.77	0.4%	▲ 0.0	48.6
輸出量		58.07	47.56	48.31	1.6%	0.0	36.1
期末在庫量		11.92	24.74	12.92	▲ 47.8%	0.0	3.8
期末在庫率		10.2%	22.9%	11.8%	▲ 11.0	0.0	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(January 10, 2020)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、米(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、直近の価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

## 世界の穀物の価格動向 (2019年)

● 小麦 : 5.55 ドル/bu (前年同時期の価格 : 5.17 ドル/bu)

(価格は、シカゴ商品取引所における2020年1月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

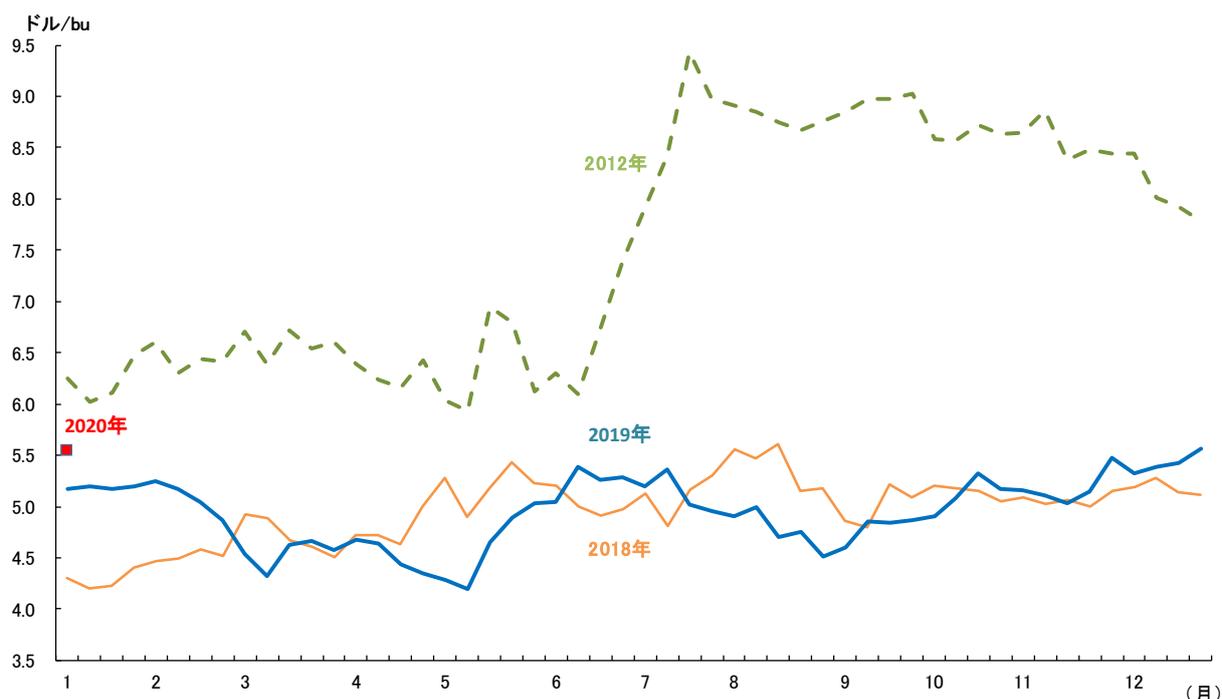
2019年1月以降、世界的に潤沢な供給も、ロシアの輸出量減少見通しを踏まえた米国の輸出量増加期待や米国主要産地での冬枯れ懸念等から5ドル/bu台前半で推移したが、2月中旬から3月上旬にかけて、黒海沿岸諸国の輸出攻勢や世界の潤沢な供給等から、4ドル/bu台前半に徐々に値を下げた。

3月半ばから4月初旬にかけては、洪水や暴風雪による米国産冬小麦の作柄悪化懸念や春小麦の作付遅延懸念等から、4ドル/bu台半ばで推移したが、4月半ば以降は、米国産冬小麦の作況改善や新穀のカナダ産小麦の作付面積拡大予測等から、4ドル/bu台前半まで値を下げた。

5月中旬以降、米国産地での収穫期の降雨による冬小麦の品質及び単収の悪化や、春小麦の作付け遅延が懸念されたことから、6月中旬に5ドル/bu台前半に再び値を上げた。その後も、大豆・とうもろこしの価格上昇や、7月の米国農務省需給報告で世界及び米国の期末在庫量が下方修正されたことから、5ドル/bu台前半で推移した。

7月中旬以降、米国産冬小麦の収穫進展や、8月の米国農務省需給報告での米国産小麦の期末在庫量の上方修正、米国産とうもろこし価格の低下から8月下旬には4ドル/bu台半ばまで値を下げた。

9月以降、米国産小麦の好調な輸出、豪州及びアルゼンチン産小麦の作柄懸念、寒波による2020/21年度米国産冬小麦の作付けへの影響懸念等から徐々に値を上げ、10月中旬には5ドル/bu台前半で推移したものの、順調な米国産冬小麦の作付け進展を踏まえ11月中旬には5ドル前後に値を戻した。その後、収穫最盛期を迎えた豪州やアルゼンチンの作柄見通しの下方修正や、12月中旬のアルゼンチン輸出税引き上げ報道により値を上げ、12月下旬現在、5ドル/bu台半ばで推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

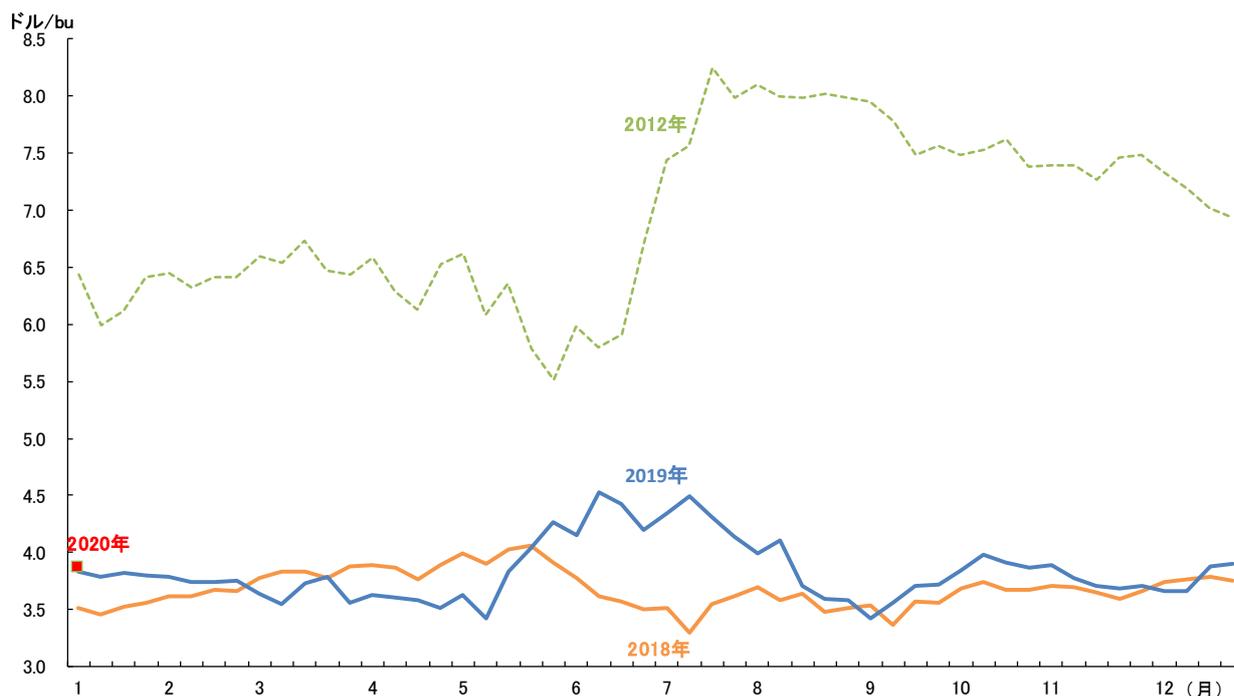
● とうもろこし：3.87ドル/bu（前年同時期の価格：3.83ドル/bu）

（価格は、シカゴ商品取引所における2020年1月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

2019年1月以降、ブラジルでの乾燥天候による影響が懸念されたものの、2月の米国農務省需給報告で世界の期末在庫が上方修正されたこと、2019/20年度の米国産とうもろこしの作付面積が増加する見込みから、3ドル/bu台半ばで推移。その後も米国で洪水による作付け遅延が懸念されたものの、米国の輸出検証高が市場の予想を下回ったこと、南米における豊作予測から、5月上旬までは3ドル/bu台半ばで推移した。

5月中旬以降、米国中西部での降雨過多による大幅な作付け遅延から、6月中旬に4ドル/bu台半ばまで大幅に値を上げた。6月下旬には、作付けの終了や6月末の米国農務省作付面積報告で作付面積が市場予想を上回ったことから、4ドル/bu台前半に一時値を下げたものの、7月半ばに受粉期の高温乾燥懸念から4ドル/bu半ばまで値を上げた。7月下旬以降、米国中西部の作柄改善、8月の米国農務省報告での市場予測を上回る作付面積、9月上旬の米国での良好な天候予測から9月上旬には3ドル/bu台半ばまで値を下げた。

9月上旬以降、9月の米国農務省需給報告での米国産とうもろこし生産予測の下方修正、9月末の米国農務省の在庫報告での市場予測を下回った在庫量から値を上げ、10月中旬には4ドル/bu近くで推移したものの、米国での収穫の進展、輸出競争の激化による米国産需要の減退等から12月初旬には3ドル/bu台半ばに値を下げた。12月中旬以降、アルゼンチン輸出税引き上げ報道により上昇し、12月下旬現在、3ドル/bu台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。  
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

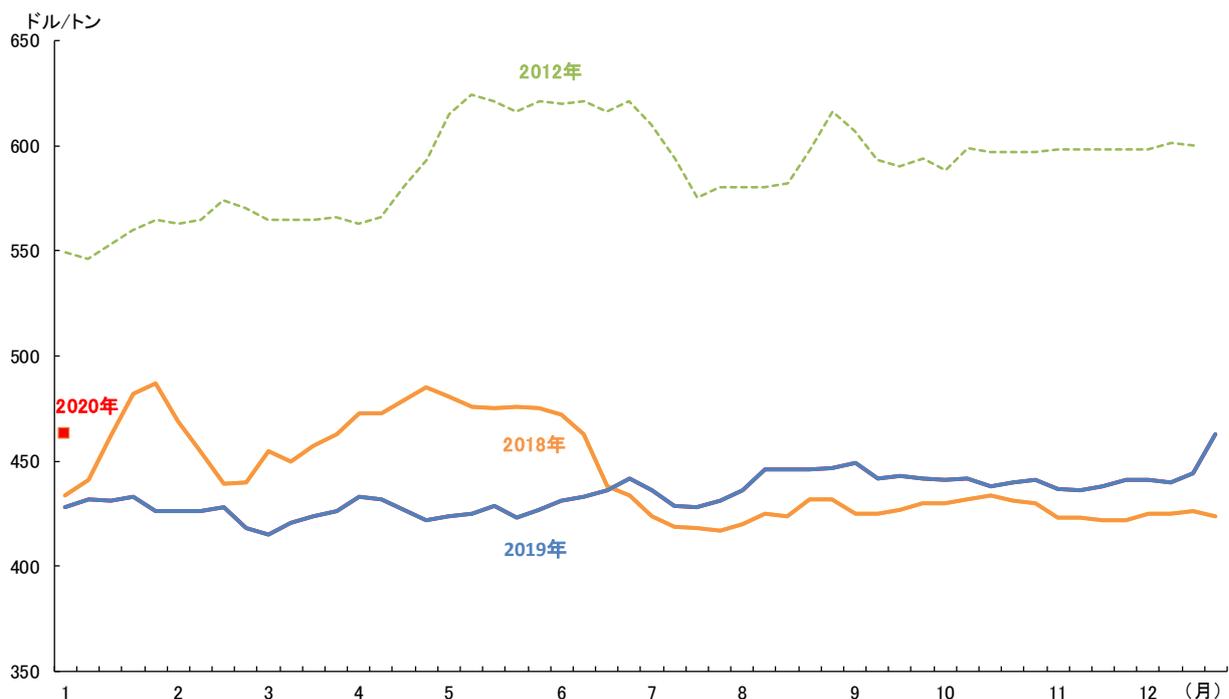
● 米：463 ドル/トン（前年同時期の価格：424 ドル/トン）

（価格は、タイ国家貿易取引委員会における2019年12月の第4水曜日のFOB価格。）

2019年1月以降、タイの収穫遅延やパーツ高等から430ドル/トン前半で推移したものの、2月中旬以降、タイ新穀（乾季作）の出回り等による国内価格の低下から、410ドル/トン台半ばで推移。

3月中旬以降、タイのパーツ高や中国の輸入見込み等から値を上げ、420ドル/トン台後半で推移。その後、タイパーツ安となったものの、アフリカ、中東向けの好調な輸出需要から、4月上旬にさらに430ドル/トン台まで上昇。4月中旬以降、タイの旧正月の祝日（ソンクラーン）で市場が閉鎖されたこと、5月上旬から始まるラマダン休暇前にアフリカ諸国が必要量をすでに確保し取引が低調となったことから値を下げ、420ドル/トン台前半で推移。

5月以降、より安価なベトナム産の新米の国際市場での出回り等により、タイ産米への需要が減退したものの、主にタイパーツ為替変動の影響から420～440ドル/トンで値が上下。7月中旬以降、タイでの長期的な降雨不足による干ばつ懸念とパーツ高の影響から値を上げ、8月下旬には440ドル/トン台後半で推移したものの、インド、ベトナム産米に比べ、割高なタイ産米は、アフリカ諸国からの輸入需要に乏しいことから10月下旬には440ドル/トン台前半に値を下げた。その後も輸入需要が回復せず、430ドル/トン台後半で推移したものの、12月中旬以降、乾季米の生産減予想から大幅に値を上げ、12月下旬現在、460ドル/トン台前半で推移。



（注）タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格（各週水曜日）  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格推移。

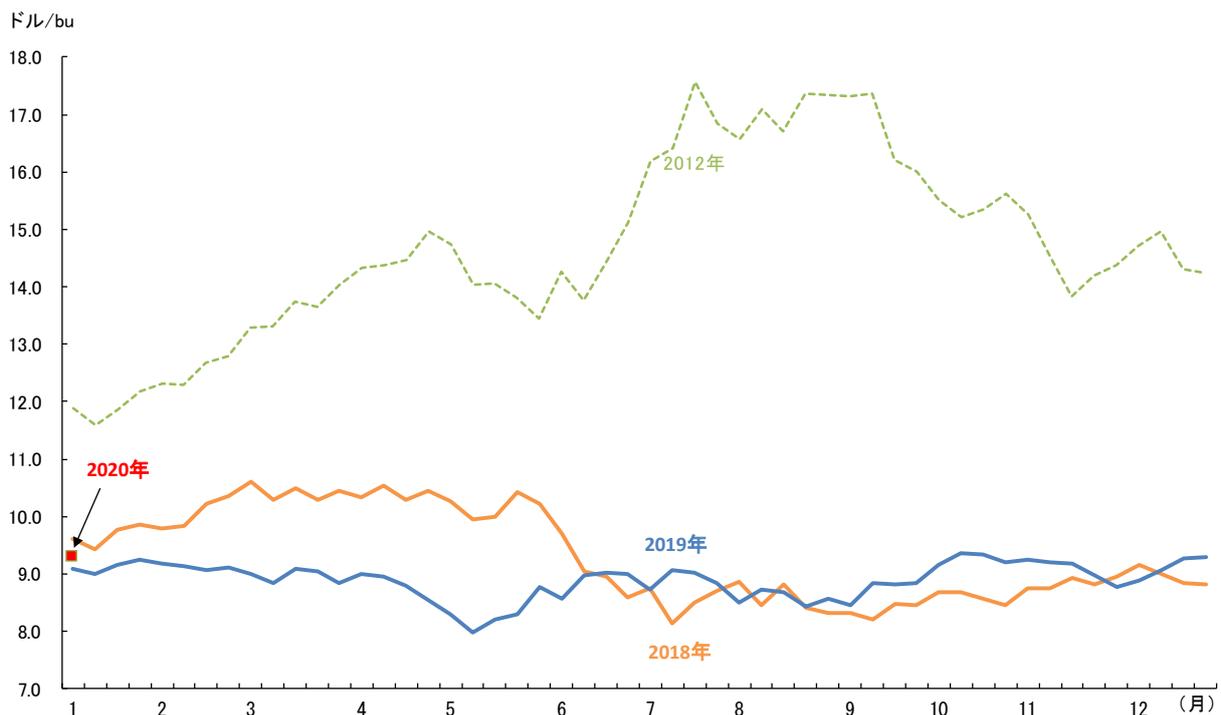
● 大豆：9.31ドル/bu（前年同時期の価格：9.10ドル/bu）

（価格は、シカゴ商品取引所における2020年1月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

2019年1月以降、米中の通商問題を巡る不透明感から一時値を下げたものの、ブラジルでの乾燥天候による影響懸念から9ドル/bu台前半で推移。2月半ば以降、米国産大豆の中国向け成約のキャンセルや、3月の米国農務省需給報告で世界の生産量が上方修正されたこと等から、9ドル/bu前後で推移。

4月中旬以降、米国農務省需給報告での米国の期末在庫量予測の上方修正や、中国の輸入減少、南米における豊作予測から7ドル/bu台後半まで値を下げた。

5月上旬以降、米国中西部の降雨過多による大幅な作付け遅延や、市場予想を下回る6月末の米国農務省作付面積報告から9ドル前後に値を上げた。その後は、7月の米国農務省需給報告での米国の生産量の下方修正から、8ドル/bu台後半～9ドル/bu前後で推移したものの、米国産大豆の輸出の伸び悩みや米国中西部の天候改善予報から7月下旬に8ドル/bu台半ばに値を下げた。8月以降も、良好な天候予測や、とうもろこしの価格下落から引き続き8ドル/bu台半ばで推移したものの、9月上旬以降、米国農務省需給報告での米国産大豆の生産予測の下方修正や9月末の市場予想を下回る米国産大豆の在庫量等から値を上げ、10月半ばに一時9ドル/bu台半ばに達した。その後、収穫の進展や南米諸国の豊作見込み等から11月下旬にかけ8ドル/bu台後半に値を下げたものの、中国の米国産大豆輸入の一定数量の免税措置の公表、アルゼンチン輸出税引き上げ報道等から12月下旬現在、9ドル/bu台前半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。  
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

## (参考2)

## 1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 1月
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.16	110.77
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
107.82	106.00	107.43	109.69	110.03	111.37	111.06	111.89	112.78	113.37	112.45
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
108.75	110.36	111.21	111.66	109.83	108.06	108.22	106.27	107.41	108.12	108.86
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
109.18										

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート  
 日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>  
 年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

## 2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 1月
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	45.20
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
44.25	45.50	44.25	43.40	43.60	45.25	47.25	48.50	50.00	50.40	50.80
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
45.25	40.00	40.80	41.75	41.25	39.75	51.13	50.56	51.02	45.78	37.60
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
37.68										

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上  
 国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC  
 Grain Market Indicators」  
 月別は、毎日価格の平均値(2019年12月は、12月2日から12月24日までの平均値)。

## 3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターメディアート)

単位:ドル/バレル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 1月
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	63.66
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
62.18	62.77	66.33	69.98	67.32	70.58	67.85	70.08	70.76	56.69	49.98
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
51.55	54.98	58.17	63.87	60.87	54.71	57.55	54.84	56.97	54.01	57.07
12月	2020年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
59.73										

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和元年12月, 120頁  
 但し、2019年12月は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum  
 Status Report」の週別価格(11.30~12.27)の平均値。